

道から眺める山々と樹林

国道273号上士幌町糠平温泉～三国峠



環境林づくり研究所

所長 齋藤 新一郎

このたび、大連休の次の土日に、「十勝三股森づくり21」および「ひがし大雪博物館友の会」の総会に出席した際に、快晴で、暑いほどの2日間、青く澄んだ五月の空の下に、私は、まだ大残雪で、まばゆいばかりの、東大雪の山々と樹林を描く機会をもつことができた。

上士幌から国道273号を北上して、糠平ダムの建設にともなう、新しいトンネルをいくつか抜けると、突然、糠平温泉郷に入った。正面にウペペサンケ山が見えたので、一息入れながら、私は、公衆トイレのある、広い駐車場の隅に座って、ウペペサンケ山（三角点のある東峰、1,848m）とその支峰、山腹、山麓の針広混交林（エゾトウヒ、アカエゾトウヒ、トドモミ、ミズナラ、シナノキ、イタヤカエデ、ほか）、糠平市街地の家屋群を描いた。ただし、絵なので、写真には写ってしまうホテルを除いた。かつて、友の会の人々と一緒に、ウペペサンケ山に登って、ハイマツ叢林の中に、私は、氷河時代を生き延



丸山

丸山橋から

びた戦略である、種子に依存しない、アカエゾトウヒの伏条繁殖——枝が接地して、発根し、枝先が立ち上がって子株に発達する無性繁殖の一種——を発見したことがあった。スイスでヨーロッパトウヒの伏条繁殖が発見された論文に触発されて、私が、日本で最初に発見してやろう、と思いつけていた願いが、この山で叶ったのであった。

それから、糠平湖の右岸に沿って、再び、北上を開始し、エゾシカが飛び出さないように、彼らに少しでも警戒されるように、昼間でもヘッドライトを点けて走行した。湖水が終わって間もなく、丸山橋があった。ここからだけ、幌加音更川の谷の彼方に、丸山火山（1,692m）が見える。山頂には、大きな爆裂火口がある。かつて、この山には、調査のつもりで、2日間、友の会の人々と、長く歩いて、登った。途中には、噴泉塔もあり、火砕流で破壊された森林の



ウペペサンケ山

糠平温泉から

痕跡（焼けた幹の穴）もあった。けれども、私は、左膝の半月板損傷の手術後であって、皆さんの足手まといになり、調査がほとんど出来なかった苦い思い出がある。描きながら、そんなことを思い出した。エゾトウヒ、トドモミの良木が、かなり伐採されたけれども、なお、尾根筋には、針広混交林が存在している。

十勝三股に到った。ここで、大ログハウス喫茶店・三股山荘で、コーヒーを飲み、残雪に耀く石狩岳方面の分水嶺を描いた。残雪にも露出している岩壁が、武田菱に見え、そう描けなければならないらしい。わが絵の右端より右に、石狩岳（1,967m）があるそう。分水嶺という大きな壁の下に、針葉樹林（エゾトウヒ類、トドモミ）が見えた。そして、手前に、シラカンバ林が芽吹きつつ



石狩岳方面 十勝三股から

あった。このカンバ林のすぐ裏手に、音更川の支流・中ノ沢が流れ、その蛇行の内側に（洪水段丘上に）、オオバヤナギ巨木林分が発達していて、かつて、友の会の人々と、带状区調査をしたことがあった。ハルニレの巨木もあった。雪解け水が、やや濁って、溢れるばかりに流れていた。

三股からは、三国峠まで、長い上り坂であり、景観の素晴らしいハイウェイである。松見大橋を渡ったところで、除雪用の駐車場に車を停めて、亜高山帯の針広混交林（エゾトウヒ類、トドモミ、ダケカンバ）の上に聳える、ニベソツ山（2,013m）を描いた。この秀峰にも、思い出がある。四半世紀以上も昔、新得町山岳会の人々と同行して、三股から杉沢の林道を登り、終点で1泊して、登ったのである。当時、私は、30代の半ばくらいで、丹



ニベソツ山 三国峠から

沢山のカモシカ少年の健脚が残っていたので、先へ先へと登っては、後から来る皆さんを待ちながら、景色をスケッチできたのであった。

それから、同じ場所に座ったまま、おっばい山の方を眺めた。おっばい山は通称で、北側がピリベツ岳（1,602m）であり、南側が西クマネシリ岳（1,635m）である。十勝三股から眺めると、まさに2つの乳房山であるけれども、三国峠に近づくと、形が変わってしまう。そして、鞍部を挟んで、南クマネシリ岳（1,560m）がある。南クマネシリ岳の方向に、松見大橋から近い場所に、



ピリベツ岳 西クマネシリ岳

南クマネシリ岳
三国峠から

昔の伐採跡地と土場（木材集積地）があり、裸地になっている。

その国有林の一部において、森づくり21の会員たちが、シカ柵を巡らし、ヤナギ類の埋幹工を実施し、ダケカンバおよびケヤマハンノキの天然更新を図り、針葉樹類の山取り苗木の植付け、ササの刈り出し、ほかを継続している。4年目で、成果が少しずつ見えてきている。10年後に、その成果を人々が認めるころには、今ある伐り残された針広混交林が、いくらか大きく成長しているであろう。ヒトが伐った山林は、自然の回復力に、ヒトが助力して、再生されるべきである。私は、三国峠から見える、三股盆地の樹海が、今後200年くらい経って、100年前の大森林に再生されてゆくことを願っている。

描いていたら、アリが無数に私に登ってきた。気付いたら、アリの通路に座っていたのであった。アリも、半年以上の越冬から目覚めて、活動を再開したのである。